

# 大阪府における 海洋プラスチックごみ対策の 取り組み

## 大阪湾に流れ込むごみの正体

大阪府では「海岸漂着物処理推進法」および「海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本方針」に基づき、「大阪府海岸漂着物等対策推進地



大阪湾漂着ごみ (提供: 大阪府)

図2: 5年間に漂着したペットボトルの製造国別割合 (H22-26年度 環境省調査を基に府作成)

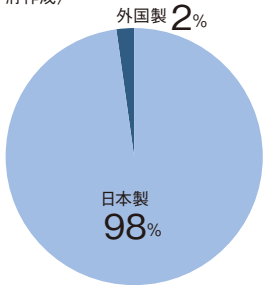
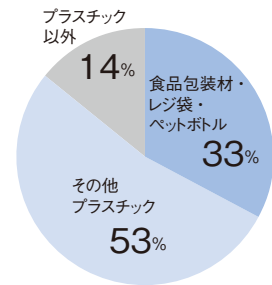


図1: 漂流ごみの種類別割合 (1Km<sup>2</sup>あたりの人工物の個数) (H27年度 環境省調査を基に府作成)



域計画」(以下「地域計画」)を2017年3月策定した。大阪府は地域計画において海岸漂着物等の対策のほか、必要な海ごみ対策を総合的かつ効果的に推進することを目的としている。そして海岸漂着物等対策のポイントとして①回収・処理②発生抑制③普及啓発又は環境教育——に関する施策等が掲げられている。大阪湾における海洋プラスチックの状況を見てみよう。大阪湾で

はプラスチックごみが漂流ごみ全体の約8割を占めている(図1)。そして、漂着したペットボトルのほとんどは日本製で(図2)、海洋プラスチックごみの多くが陸域由来と考えられている。大阪湾は周りを陸地に囲まれた閉鎖性海域であり、1級河川である淀川や大和川をはじめ、大小さまざまな河川を通して多くのごみが大阪湾へ流れ込んでいる状況である。

## 海洋プラスチックごみ対策の取り組み

海洋プラスチックごみの現状をふまえ、大阪府や市町村は回収・処理、発生抑制、普及啓発等の対策に取り組んでいる。まず、継続的な取り組みから紹介しよう。

海岸漂着物や河川敷ごみの回収として、大阪府や市町村による港湾区域、自然海浜や河川敷等におけるプラスチックを含む漂着ごみなどの回収作業・キャンペーンに加え、浮遊ごみや海底ごみの回収

などを行っている。つぎに、海洋プラスチックごみの発生抑制や啓発活動等として、大阪湾沿岸自治体と連携した大阪湾の水質を考える啓発イベントや、市町村のルールに従ったごみの分別排出の啓発を行っている。また、毎年10月のマイバッグ持参によるレジ袋削減キャンペーンや、北摂7市3町がスーパーマーケット9社と連携して実施するレジ袋無料配布中止などの取り組みを進めている。

一方、今年度からの大阪府の新たな取り組みとして、海洋プラスチックごみの実態の正しい理解を深め、マイバッグの持参やポイ捨てしないなどといった対策のための行動を起こしてもらうために、企業と連携してポスター、チラシによる啓発や、環境イベント、SNSなどさまざまな媒体を通じた情報発信を2018年10月から実施している。

2019年1月28日には、大阪府と大阪市は、使い捨てプラスチック削減のさらなる推進やプラスチックの資源循環の推進などを盛り込んだ「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を行った。

世界的な関心事となってきた海洋プラスチックごみ対策は喫緊の課題である。G20大阪サミットを6月に控え、府担当課は課題解決に向けた取り組みをさらに推進させたいと語る。

協力: 大阪府環境農林水産部環境管理室 環境保全課環境計画グループ